

## 日本の原風景という幻想

私は長い間、日本の原風景という幻想に囚われていた。私の生まれ育った山梨の家は藁葺き屋根の古い家で、そこで過ごした幼少年期の思い出を、私は日本の原風景に重ねていた。私が農業土木に惹かれたのは、そんな日本の原風景を守るため自然との調和を重視した土木技術というイメージをもったからである。しかし、現実には原風景から遠ざかるばかりであった。国営事業は古き良き原風景を破壊していくだけのように感じた。とくに北海道の広大な農業地域は、見慣れてしまえばどこか寂しい殺風景な農村にしかみえなくなった。追究すべき理想を見失ったまま、家族のためなどと目的をすり替えて日々の仕事に邁進し、いつしか失われていく原風景に関して思考を停止していた。

現地調査のため十勝の芽室町に出かけたその日、すっかり見慣れてしまった広大な畑地を見ていて、ふと思った。この地の開拓以前はどのような風景であったのか。おそらく原生林が広がっていたのだろう。そしてふと気づいた。遠い昔、アイヌの人たちがみた風景は、まさにそんな風景であったのだろう。ということは、アイヌの人たちが思い描く原風景は、私が抱き続けてきた日本の原風景とはまったく異なるものではないか。この瞬間、私がこれまで信じていた日本の原風景という一般性が覆された。

不思議なことに、私はそのことで困惑したというより、長い間の囚われからやっと解放されたようなほっとした気分になった。おそらく、そのことを望み、その根拠を探していたのだと思う。私は、やっと地に足をつけ、時代の到来を受け入れ、その先の未来に希望を抱くことを許された。そして、これを機に、私の目標は、率直に「若い世代が営み暮らす活気ある農業・農村の実現」に変わった。その具体的な手段として期待するのは、圃場の大区画化とスマート農業である。未来の農村は日本の原風景とは全く異なる風景になるかもしれない。しかし、未来へ向かうことの代償として日本の原風景を葬ることに、もう迷いはない。

(水利基盤チーム上席研究員 大久保 天)

\* \* \* \*

表紙左上記号 ISSN 2432-2652の説明

国際的なコード番号である ISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館 ISSN 日本センターから付与されたものです。